

ことわざ・慣用句

今回の学習のポイント

- ① 「ことわざ・慣用句」とは？
- ② 「ことわざ・慣用句」の表現効果を理解しよう

国語監修・執筆

古宮才由里

「ことわざ・慣用句」とは？

■時代と共に生きる言葉 「ことわざ」「慣用句」

言葉は、その時代に生きる人々と共に存在しています。「ことわざ」や「慣用句」も同じ性質を持っています。これらの言葉は、多くの先人の経験やそれに伴う実感、生きる知恵から生まれました。神話や説話などにも見られ、古いものは約千三百年もの時を超えて、現代まで受け継がれています。

「ことわざ・慣用句」の表現効果を理解しよう

■「ことわざ」とは？

ことわざとは、教訓や批評などを含んだ昔からの言い回しのことです。言葉のリズムが良く短い成句が多いので、覚えやすいのが特徴です。これまで子どもから大人まで多くの人々に使われてきました。この番組の講師・金田一秀穂先生の祖父・金田一京助先生が編纂した国語辞書では、ことわざを「その国の民衆から生まれた教訓的な言葉」と説明しています。ことわざは短い言葉だけれど含蓄があり、納得させられたり共感したりするなど、心に響く言葉が数多く存在します。

それは、世界でも同じことです。日本と同じような意味の成句が海外にも存在します。「時は金なり」を英語で「Time is money」と言い、「遠い親戚より近くの他人」は「A near neighbor is better than a distant cousin.」と表現されます。時間や空間を超えても風化しない、普遍的な価値を持つ成句。これがことわざであるとも言えるでしょう。

さて、番組冒頭で、カレンさんとオウムさんの会話にことわざが四つ使われます。それぞれの意味を、実際に確かめてみましょう。

① 立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花

【意味】容姿や動作が美しい女性のこと。

② 豚に真珠

【意味】価値のわからないものに高価なものを与えても、何の役にも立たないこと。

③ 泣き面に蜂

【意味】不幸が立て続けに起こること。

④ 暖簾に腕押し

【意味】手応えや効果が全くなく、張り合いがないこと。

①は、三つの花による比喻を通して視覚的に女性の美しさを表しています。「芍薬」は、すらりとした茎に美しい花を咲かせます。「牡丹」は、枝分かれした横向きの枝に花を咲かせ、まるで座っているかのように見える豪華な花です。「百合」は、風に揺れる姿の美しい清楚な花。「芍薬」、「牡丹」、「百合」の花に、女性の美しい立ち姿や優雅に座る姿、優美に歩く姿が重ねて表現されています。見たものに対する実感から、美しさのイメージが豊かに広がっていきます。直接「美しい」というよりも、言葉にできない微妙な美的感覚が伝わります。

②と④も比喻で、わかりやすい出来事や場面を切り取って短い成句で表しています。これらからは、おしゃれにこだわろうとしても、流行の服が似合わなかったり、おしゃれをすればするほど不恰好ぶかっこうに思われたりして、努力しても報われないう、というオウムさんの嘆きが見えてきます。しかし、ことわざを用いると、深刻さは感じられません。ふっと笑いたくなるような軽妙なおかしみやユーモアが感じられます。これもことわざの魅力の一つです。

【発展1】

ことわざは、比喻のほかに、天気や気象、生活の知恵などさまざまなものがあります。次のことわざの意味をそれぞれ確かめてみましょう。

- ① 暑さ寒さも彼岸まで ② 狐の嫁入り ③ 河童の川流れ
- ④ 急がば回れ ⑤ 情けは人の為ならず

■ 「慣用句」とは？

慣用句とは、言いたいことを別の言葉で置き換えた比喻表現です。二つ以上の単語が結び付いて、全体で元の単語とは全く異なる意味を表します。慣用句には、身体の一部や身近な動物などが見られ、単語の結びつきや発想がおもしろく、私たちに新鮮な感覚を与えます。いつもの表現とは違う楽しさが感じられます。それでは、いくつかの慣用句を見てみましょう。

① 「口くち」に関する慣用句

- 口が重い || 口数が少ない。
- 口車に乗る || 相手の言葉にだまされる。
- 口火を切る || 初めにことを行う。

② 「顔」に関する慣用句

- 顔を伺う || 相手の機嫌を伺う。

- 顔から火が出る⇨深く恥じて赤面する。
- 何食わぬ顔⇨知っているのに知らないふりをする。

③ 「肌」に関する慣用句

- 肌身離さず⇨常に身に付けている。
- 肌が合う⇨気が合う。
- 肌で感じる⇨実際に体験して実感する。
- 鳥肌が立つ⇨ぞっとする。
- 一肌脱ぐ⇨本気で人助けをする。

慣用句では、「驚いた」というよりも「目が点になる」と表現したほうが、実感がグッと高まります。「足が棒になる(歩き疲れる)」、「歯が浮く(軽薄な言動で不快になる)」なども身体感覚を通してイメージしやすく、生き生きと伝え合うことが可能な成句です。動物に関する慣用句も見られます。当時の人々の生活と結びつきの深いものほど数多く用いられています。

【発展2】

次の慣用句は、先人の日常生活でなじみの深い動物や身体の一部から成立しものです。〱〱に共通する単語を当てはめて、慣用句を完成させましょう。

- ① 〱〱の手も借りたい(非常に忙しい)
 〱〱の目(よく変わる)
 〱〱の額(非常に狭い)

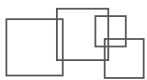
答 〱 〱

- ② 〱〱芝居(浅はかなたくらみ)
 〱〱の尻笑(自分の欠点に気づかず人の欠点を笑うこと)
 〱〱知恵(利口なようであまぬけな知恵)

答 〱 〱

- ③ 〱〱から手が出る(欲しくてたまらない)
 〱〱まで出かかる(思い出せそうで思い出せない)
 〱〱が鳴る(食べたくてしかたがない)

答 〱 〱



まとめ

ことわざには賢く生きる手がかりやヒントがあり、慣用句には日本人の身近な事物に対する特有の発想が見られます。これらは現代社会にも通用するものです。日常会話やSNSなどでも使ってみるとおもしろい発見がありそうです。

ただし、成語の意味を間違って使用すると、誤解を招くものもあります。例えば、「気の（が）置けない」という成語。「気兼ねの必要がなく、親密な」間柄を示すもので、「相手に対して気配りや遠慮をしなくてはならない」という意味ではありません。意味を取り違えると、失礼な言い回しになり、人間関係に支障をきたすものもあります。誤用には十分注意して、ことわざや慣用句を楽しむようにしましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【答】

【発展1】

①しるぎやすい気候になること。 ②晴れているのに小雨が降ること。
③名人でも失敗はあるということ。 ④急いでいるときこそ、時間や手
間がかかっても安全で確実なほうがうまくいくということ。 ⑤人に情
けをかけて善い行いをしておくと、巡り巡っていつか自分に返ってくる
ということ。

【発展2】

①猫 ②猿 ③喉